

たる以上、個々の幼児をよく知り、その個性に基いて躱げの方針を立て、ゆかなくてはならない。つまりは、幼児ひとりひとりの性質の知り方と、それに對する態度處置の定め方との指導が必要である。これは必ずしも心理學的といふ程のことではなく、決して一々心性査定を方法的に行ふといふことではない。それとして必要もあり、またその方法も學ぶがよいとして、實際の保育——殊に話あひと遊び相手との間において、おのづからそれが出來てゆくように指導したいのである。

大きな躱げに就ては、その要點も要領も、保育上素より極めて大切である。しかし短期の保育實習では、躱の結果を擧げるといふよりも、個々の幼児に就て、何を躱げ、どう躱げることが必要な、懇に氣がつき得ることが大切である。指導もこゝを目標したい。

## 實習指導の内容の五

個の凝視、個の躱げの工夫の他に、集團を集團として把握し保育することの指導は、高等女學校保育實習指導の一つの必須

の内容である。この新課程の目的の少くも一つがこの點にあるからである。一旦の非常時、幾人かの幼児の集團を、一人をも見失ふことなく、一人にも自分(保姆)を見失はさせることなく、しつかりと、しかもやんわりと、手中に置くことを得させなければならぬのである。しかもこれが高女生にとつて、最も容易でない。といつて、つづげさまに整列させたり、一と束にして置いたりすることは出來ないし、してもならない。幼児群らしい形はとらせて、しかし散逸散亂させないことが必要である。

心の目が、ちやんと一人々々の有り場を追つてゐなくてはならない。つい一人二人を置き忘れ——場から又心から——たゞ、羊の群を指導する犬にも劣るといふことになる。

たゞ、この指導はなか／＼むつかしい。經驗を積ませるよりし方がない。まあ女生徒銘々に幾人かづゝの幼児を分擔させて、責任を以て引受けさせることである。綜合實習では、時間的に保育の繼續を經驗させると共に、場所的に保育の行き届きを經驗させる意味をもつ。即ち、個々に手が行き届き、集團に氣が配られ届くことに外ならない。その熟練の完きを得るは難いとして、その方向に指導することこそ、保育實習指導の全面的一大眼目といつてよからう。

## 子供の健康の見分け方

醫學博士 内藤壽七郎

健康と云う言葉は甚だ解り易いやうでも、又反面却々理解し難いことである。即ち健

康と云うものに對する定義が醫學上明確を缺いてゐるからである。山本康裕博士は「健

康とは總ての機關の状態及び機能、並びに一般免疫力乃至抵抗力が、從來よりの醫學的經驗に徴して生理的範圍にあること」と述べて居る。即ち健康であるか否かの判定は却々難しいのであつて、一寸本人を診察しただけで健康體とか、不健康體とか云うことは大なる危険が伴ふもので、或一定期間觀察した上でなければ解らないのである。即ち、其の間に於ける子供の其器官の機能が生理的であるや否やと云うことについて、即ち例を胃腸の機能にとれば少し大豆の混入の多い御飯を食べるとすぐに翌日は下痢をすると云うものがあつたとする。

併し多くの子供達はいくら大豆が混じてゐても一向平氣で毎日有形便を出してびんびんしてゐるとする。即ち前者は消化器の機能が生理的でないことが分る。免疫力に於ても、多勢の中には一寸氣候が不順になつたりするとすぐに風邪を惹いてお休みをする子供がある。此の場合他の大多數の子供は風邪を惹かないで無事通ひ通してゐるとする。前者は即ち免疫力の不充分なることを意味するものであつて、斯くの如く、長期間に亙る觀察を経て初めて判定なし得

るもので、健康と云う様なことを醫學的に正確に判定することは容易なことではない。私は今茲に健康と云う言葉の醫學的な解釋を離れて、唯「病氣でない」子供と病氣の子供、殊に潜在性の場合、例へば疫痢に罹つてゐても未だ初期で其の特有の症狀を示さず、表面は一見して普通の子供と同じやうな様子をしてゐるものと、或は百日咳や麻疹等でも其の初期であつて未だ特有の症狀を現はさないで、併も大勢の子供の中に混じつて活動してゐる場合とか云うものについて少し述べて見たい。

機嫌

機嫌のよささうな顔つきは實によく體内の諸器官の正常状態にあるか否かによく示して呉れる。熱が三十九度或は夫以上に昇つてゐても赤ちやんがあやせば笑うと云うやうな時は私達小兒科醫師は、先づこれなら入院とか、輸血とか云つて騒ぐには及ぶまいと云う氣持ちになる位である。

顔つき 熱は三十七度に達するか達しないやうな場合でも、疲れきつたやうな、ぞんよりした眼つきを見たら何か重大な病氣が體内に潜んで之から現はれて来るのでは

あるまいか、或は既に起つてゐるのではあるまいかと心配させられる。眼の中でも白い所がすんでゐなくて濁つて来る。疲れたいやうな目つきで生々としてゐないのである。顔つきの中でも、不安そうなの、何か落着きのないそはくしてゐる様に見へることも、他方ぼんやりして、寢不足でもしてゐる様な風に見えるのも共に病的な顔貌と思はなければならぬ。こんな場合はすぐ不機嫌な子供を見つけた時の處置として、體温を計つて見るとか、體温計がなかつたら寝かしてから數分間安靜をとりさせた上で脈搏を數へなければならぬ。參考迄に幼兒の脈搏數を示すと、

130—140			
	130		
	125		
	125		
	120		
		男	女
		106	108
		100	103
		96	100
		94	97

であつて、右は平均値であるから、之に十位多くても、直ちに熱のある徴とは云へな

いが二十以上も多い時は熱があるものと考へて處置しなければならぬ。殊に脈搏は熱發に先んじて變化を示すことが多い。瘦痢の初まり時など子供が未だぐつたりして元氣がない、熱は計つたが未だ平熱だと云う時、脈搏は既に奔馬の驅る如く頻數となつてゐることがある。

不安そうな顔つきも、子供達が未だ保育所等の建物や、人に馴れない中は、神經質な子供であれば屢々見受けられるし、そんな時「貴方に一寸熱がありそうだから此方へお出で」などと大仰なこと云つたりしたりすると、寝かされて脈搏をしらべる時所謂胸さばきが起つて來て脈搏が多くなるから、脈搏などをしらべる時は極めて自然な態度で子供に不安の念を起さしめないで繪本を見せるとか、好きな話をするとか、殊に三―四歳位の子供に効果のあるのは食べもの、話などをしてやるゝ氣分を落ちつかせて呉れる。

無慾狀のぼんやりとした顔つきをしてゐても、夫が智能發育不全の爲に所謂痴呆に由來することもあるので唯最初一回見ただけでは、先天性の痴呆なのか又は急性の病

氣の爲に起つてゐるのかわからない。いつも活潑な子供が今日はどうしたのかぼんやりした顔つきだと云う時にのみ問題となるのである。前夜睡眠が不足したか又は何か病氣の起つて來る前にこんな状態を呈することがある。

顔の紅味 健康な乳兒は皆頬部が紅い。

蒼白な時は貧血か又は發熱等の異常の場合である。幼兒でも、頬の赤味が兩方の頬に見られないで片方の頬のみ赤く、而も夫が頬紅でもつけた様な桃色か、つた色調を帯びてゐる時は病的反徵である。多く軽度の熱のあるときに見られる。若い場合は皆貧血にしてしまつてはいけないので貧血と云う場合は必ず眼瞼を下に引張つて眼瞼粘膜の赤味があるか又は白味を帯びてゐるかなを見ること、又爪の色を見て赤味があるかないかを驗べて見ること。赤味があれば夫は假性貧血であつて問題にする必要がないからである。貧血のときは蛔蟲や十二指腸蟲等の寄生蟲や、肺門淋巴腺、結核其他潜伏性の結核等色々のことを心配しなければならぬ。

咳 俗にかう咳と稱してゐるのは咽頭、

喉頭等の刺激によつて出る痰を混じへない場合であり、之に對して痰を混へる咳がある。乳兒幼兒では喀痰の排出が出来ないで皆嚥下してしまふ。喀痰の混る場合は、氣道や氣管の粘膜に炎衝性の分泌物が出來てゐるので、此の場合は種々の咳を伴う病氣でも初期であるから既に相當進んだ時期とか、恢復期等に認めらるゝのであるから、咳の他に感冒なら感冒、氣管枝炎なら氣管枝炎と、それゝの病氣の特徴が他にも認められるのであるが、問題は刺戟性の所謂から咳である。

からつ咳の場合は感冒、百日咳や麻疹の初期、肺門淋巴腺腫脹の場合等に見られる。之等の病氣の極めて初期では其の咳を一寸聞いただけで、これは百日咳になる咳、之はデフテリーの咳とは斷定することは困難である。少し咳の經過を見る必要がある。理想的なことを云へば、から咳の出る子供は其の日一日別にしておいて觀察するか或はどうも心配であつたら其の本態が明になるまで皆と一緒に保育すると傳染の心配なしとしないから保育を斷る位にした方が望ましいことである。

ヂフテリイの場合の咳は素人がよく云う様に犬吠性の、きよほん／＼と云う響を有することが屢々あるのは事實である。併しきよん／＼と云う咳が總てヂフテリイとも云へない。怪しい場合は子供を室の明るいつ所につれて行つて匙の柄で舌を壓さへて咽の奥を見ることである。ヂフテリイの場合には白斑が兩側或は片側の赤く、梅干しの様に腫れた扁桃腺の上についてゐるのが認められる。勿論此の場合熱があつたり、唾飲みをさせると痛がつたりする。喉頭ヂフテリイの場合は扁桃腺に白斑が見られないで、犬吠性の咳と毎日々々弛張熱が續くこととそれに伴つて聲が嘶れて來るし、咳も日を経ると共に多くなることが注意される。

百日咳の咳 剛れた看護婦なら病院の待合所や、電車の中でも咳だけ聞いて、初期の即ち未だ百日咳特有の後へ引く咳をしない中から發見出來る。この咳は必ず息を吸ひ込む暇なく、一度咳が出るとあくまで胸の中の空氣を出し切つてしまふと云うやうな調子を示すので、従つて一回の咳の時間が長い。そして強い咳で咳の時兩肩が動き、

顔が眞赤になり、時には目に涙がたまつたり、咳のあとで粘々した唾の濃ゆいやうなものな口からだらりと出したりする。御飯を食へたあとなどであれば咳のあとで吐いたりする。百日咳の咳は晝間は割合に輕いのが夜分殊に夜中から明け方に多いのが特徴であるが、之は家人の方に尋ねないと解らない。又百日咳の咳は最初極めて初期のものゝは感冒性のものと何等異なる所がないと云つてもよいが必ず二―三日中に其の本性を現はして來て強い咳長く續く咳が一寸驅けさしたりした後に出て來る。そして咳の回数も日を経るに従つて多くなるのである。

併し百日咳の豫防注射を今迄數回受けてゐるやうな子供ではあまり特有な咳をしない中に經過し終ることもあり、之等の子供が他の兒に感染させることもあるが之はさうも普通一般の保育所の場合には已むを得ないことである。後へ引く即ち笛聲を發しない内に即最初一二週の加答兒期の中に發見してやれば其の子供にとつても又他の子供にとつても幸である。

麻疹の初期の場合 麻疹の初期もこの刺戟性のからつ咳が出る。私は今迄咳の全く

出なかつた麻疹患者と云うものは見たことがない。お母さんがこの子は麻疹をしましたと云つて話しをされても、其の時咳がなかつたと云はれたとすれば私は其の麻疹は本物ではないものと考えへてよいと思つてゐる位麻疹には咳はつきものである。刺戟性の咳が段々多くはなるが百日咳の様に一回の咳込み方が長いことはないし又夜分に多く晝間は忘れた様に少ないと云うこともない。然し眼脂とか、之に伴つて唾とか鼻汁とかの鼻咽喉加答兒の特徴が後になる程強くなつて行く。百日咳の場合には反對で最初に鼻頭のカタル症狀が強く後になる程弱まつて來るのである。麻疹に特有な、口腔内部(頰部)粘膜のコップリック氏の斑點などが現はれるころは熱も高いし咳は最高潮ではあるがこんな子は保育所に來ない。

潜伏性の肺門淋巴腺の腫脹の時は唯時折り輕い刺戟性の咳だけが出たり、時には百日咳と紛らほしい強い長い咳をすることもある。こんな兒は食慾不振がつきものである。咳の出る子供に遭遇したら以上のことは心得ておいて戴くのと同時に、家庭内に今百日咳の兄弟はゐらないか、麻疹で寝てゐる

る姉妹はゐないが、家族内に殊に母親などが結核であるかどうかを問い正しておく必要がある。若しそんな兄弟がゐたとして、其の子供が刺戟性の咳を初めたとしたら直ちに、此の咳は百日咳の咳の初期のものとか或は麻疹の初期のものとかと想像されるのである。

**食欲不振** お晝とかお入つの時の食べ方を見てゐると大體解る。併し大勢の子供と一緒にだそう食べたくないものでも食べてしまうことがある。此の際馴れた保姆さんであると思つて御飯を残すか残さないかに注意をしてゐる。又保育兒を受取る場合必ず今朝の御飯はよく食べて来たか否かを問ひ直す可きである。御飯も食べないで来てなるとなく元氣がない様子であれ早速前述の脈搏の測定と、出来得れば計温をしてやらなければならぬ。斯の様に急激に來た食欲不振に對して、慢性の即ちいつもお晝御飯を残すと云うやうな場合は必ずツッパルツッパルの反應を檢査してやらねばならない。

**腹痛のある場合** ぼん／＼が痛いよなど教へてくれるのはまほぶの場合で、多くは前くぐみになつてじつとするとか、泣き出

すとか云つたことになる。お腹が痛い泣いてしばらくするとけろりとしてゐるのは再發性腹痛症と云つて三―四歳位の神經質の子に見られる。此の場合熱はない。灌腸などすると硬い便が出る。便秘性のものが多い何等心配はいらない。

熱がなくとも心配なのは腸閉塞や蟲垂炎(盲腸炎)である。時には脱腸の嵌頓症がある。これ等の場合腹痛は長い間斷續的に見られて、苦悶の状を呈する。遊戯中一寸お腹痛いと云つて泣いて又しばらくするとけろりとするやうな場合と異り早く醫師の所へ届けなければならぬ。

## 躰の指導

戦時下の幼稚園、保育所で幼兒の躰の問題は保健問題と共に、常に保育の實際にあつたものが二つの大なる保育目標として考へられてゐることは今更いふまでもない事である。皇國幼兒としての基礎的錬成はこの二つの目標の達成によりて出来るもの

以上を要約して見ると、  
顔に生氣のない兒を見た時 處置(脈搏の測定、計温)

熱なくとも脈搏の早い場合 發熱の前驅期(感冒、疫痢)、神經質兒  
顔色の紅味 片側のみの時は輕熱、蒼い時、寄生蟲、結核

咳が乾性で刺戟性のとき 感冒の初期、麻疹の初期、百日咳の初期、肺門淋巴腺腫脹(主として結核)

と云うことになる。  
以上甚だ不完全なものと思ふが少しでもお役に立てば幸と思つてゐる。

## 及川ふみ

で、保育のすべてはこの健全な身心の發育を主眼とする保育目標に向つて一路邁進する事である。

しかも戦時下の今日、この躰の問題については既に年を重ね、お互保育者の間に種々考究せられ、且つ實施せられてゐる事